

特別寄稿

年頭にあたって



日本銀行前橋支店長 神山一成

新年明けましておめでとうございます。旧年中は日本銀行前橋支店の業務に対し格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、群馬県経済は緩やかな回復基調を続けました。わが国経済全体では弱さが目立つ中にもしっかりと展開を続けた要因の一つとして、製造業の活発な活動とその県内経済への波及が挙げられます。群馬県の鉱工業生産は、北米での需要増加を背景とする自動車の好調等から、全国の動きと異なり、リーマンショック後の未曾有の落ち込みを既に取り戻して、過去最高水準で推移しました。短観により2016年度の事業計画をみますと、製造業、非製造業を合わせた全産業の企業収益は4年連続の増益となっており、設備投資計画は前年度をはっきり上回っています。企業部門から家計部門に目を転じますと、労働需給は着実な改善を続け、雇用者所得は緩やかながらも着実に増加しています。個人消費は、夏場には天候要因等から一部に弱めの動きもみられましたが、その後は持ち直し、基調としては雇用・所得環境の改善を背景に底堅い推移を続けています。

こうした動きが今後も持続し、いま少し経済の水準が高まってくれば、多くの企業や家計の方に景気回復をしっかりと実感して頂けるようになると考えています。この点、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」のもとでの思い切った金融緩和を通じて、経済・物価の改善の動きをしっかりとサポートしていくことは、群馬県経済ひいてはわが国経済を持続的な成長軌道に復帰させるために、やはり大事であると考えています。

金融面をみますと、群馬県内の金融機関貸出は、業種や規模の拡がりを伴いながら、残高が前年を上回って推移しています。地域の金融機関は、金融仲介機能を高めて企業のニーズにしっかりと応え、地域に前向きな好循環を作り出していくべく、産官学との連携や地域を超えた広域連携による新たな資金需要の創造、創業支援、事業承継等の取組みを積極的に推進しています。日本銀行前橋支店としても、群馬県経済のより一層の発展に向けて、こうした各種の取組みを積極的にサポートしていきたいと考えています。

本年が群馬県経済の更なる飛躍の年となることを祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。